

四季の詩が流れる大地 -神舞う、ふるさと鶴居村-



鶴居村
Tsurui Village



作業システム導入支援事業

第2回検討委員会

2011.11.30

鶴居村森林組合

議 事 次 第

1. 出席者紹介

2. 検証報告

鶴居村森林組合 門間孝巖



3. 質疑応答

4. その他

1. 検討委員紹介

所	属	役 職	氏 名	適用
鶴居村森林組合		代表理事組合長	松井廣道	
北海道大学大学院農学研究院		准教授	渋谷正人	
独法)森林総合研究所北海道支所		地域研究監	佐々木尚三	
地独法)北海道立総合研究機構林業試験場		経営科長	渡辺一郎	
(株)森林環境リアライズ		専務	石山浩一	
北海道水産林務部林務局林業木材課		主査	五十嵐孝史	
釧路総合振興局産業振興部林務課		課長	山口和久	
釧路総合振興局産業振興部林務課		造林係長	菅野肇	
釧路総合振興局産業振興部林務課		林道係長	小笠原昭二	
釧路総合振興局産業振興部林務課		主査	番藤浩一	
釧路総合振興局産業振興部林務課		主査	佐野弥栄子	
釧路総合振興局森林室		室長	鈴木匡	
釧路総合振興局森林室		普及課長	橋本信行	
鶴居村役場		産業課林政係長	小北隆男	
鶴居村森林組合		森林整備課長	門間孝巖	事務局

事業全体工程(予定)

	事業全体	鶴居村森林組合
5月	・公募開始	・課題提案書の提出
6月	・候補者の決定	・助成金交付申請書の提出
7月	・第1回検討委員会開催	・事業着手 ・ナカザワアグリマシーンにレンタル発注 ・第1回検討委員会開催
8月		
9月		
10月		・レンタル機による実証及び検証開始
11月	・第2回検討委員会及び現地検討会	
12月		
1月	・実施結果のとりまとめ	
2月		
3月		

2) 従来システムの課題と問題点

⑩ 従来システム

- ・ブルドーザー、バックホウ(レーキ)等による枝条整理
その後刈払い機による刈払
- ・火入れによる地拵え。
- ・ロータリークラッシャーによる地拵え(ユンボ)

⑩ 問題点

- ・枝条等を谷筋等へ集積することによる植林面積の減少
- ・廃根線に有害動物(エゾヤチ鼠)が営巢しやすい。
- ・火入れの場合は山火事の危険がある。
- ・回転する刃が剥き出しのため破砕物が飛散する。

6) 検討項目(案)

- ①地拵えアタッチメントの作業工程の検証:1日当りの作業効率
- ②作業後の地表状況の検証:裁断枝条の量や土壌の物理性変化の確認
- ③作業可能条件の検証:傾斜、土質、植生、天候等の水分条件等
- ④植栽作業の効程改善効果
- ⑤活着率
- ⑥野鼠排除効果

⑩今事業においては地拵えまでの作業の実施になるため①～③までの検証を行う。④～⑥においては植栽が来年度以降となるため次年度に独自に観察及び検証を行う。

6) 検討結果

①地拵えアタッチメントの作業工程の検証:1日当りの作業効率

- ・現在までの稼働状況

動作確認を含め3日間

- ・面積0.9HAカラマツ伐採跡地 傾斜:無 植生:笹

7時間程度

- ・地拵え方法

バック走行により高めに刈払い、伐根等の確認をしやすくする。

その後フロント走行により仕上げを行う。

6) 検討結果

②作業後の地表状況の検証：裁断枝条の量や土壌の物理性変化の確認

・伐根及び枝条の量

現地で確認のとおりであるが比較的細かく裁断できるため破砕物が少ない。
また破砕物の飛散がない

今後、様々な箇所にて検証が必要

・地表状況について

良好である。

③作業可能条件の検証

・傾斜

トラクターが垂直方向で作業できる箇所については有効

・土質

植生は選ばないがホイールタイプのため水分条件に注意

6) 検討項目

- ④植栽作業の効程改善効果
- ⑤活着率
- ⑥野鼠排除効果

⑩今事業においては地拵えまでの作業の実施になるため①～③までの検証を行う。④～⑥においては植栽が来年度以降となるため次年度に独自に観察及び検証を行う。